

# Age is an independent predictor in pathological diagnosis of sarcoidosis: a retrospective analysis of diagnosis by endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2020-07-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鍬崎, 恵里子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002696">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002696</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2476 号

Age is an independent predictor in pathological diagnosis of sarcoidosis: a retrospective analysis of diagnosis by endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration

超音波気管支鏡ガイド下生検によるサルコイドーシスの診断において年齢は独立した予測因子となる：後方視的研究

鍛崎 恵里子（くわさきえりこ）

博士（医学）

#### 論文内容の要旨

超音波気管支鏡ガイド下生検（Endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration；EBUS-TBNA）は、高い診断率と安全性から、現在、肺門および縦隔リンパ節腫大を伴うサルコイドーシスの診断の主要な手段となっている。しかし、EBUS-TBNA によるサルコイドーシスの診断における予測因子は未だに明らかでない。本研究は、EBUS-TBNA によるサルコイドーシスの診断の予測因子を検証するために行った。

2010年2月から2017年12月に順天堂医院呼吸器内科でEBUS-TBNAを施行された患者の中から、病的かつ/または臨床的にサルコイドーシスと診断された患者を後方視的に抽出し、患者の年齢、性別、ステージ、穿刺リンパ節数、総穿刺回数および各リンパ節の穿刺回数、リンパ節の大きさを調べた。次に、患者をEBUS-TBNAにより病理学的にサルコイドーシスと診断された群と診断されなかった群に分け、EBUS-TBNAによりサルコイドーシスの診断となるための予測因子を単変量解析により評価した。続いて、多重ロジスティック回帰分析を行った。

89症例、115リンパ節を検証した。EBUS-TBNAによるサルコイドーシスの診断率は74/89（83.1%）であった。単変量解析では、リンパ節の大きさと穿刺回数は両群間に差がなかったが、年齢は両群間に差があった。さらに、多重ロジスティック回帰分析では、年齢はEBUS-TBNAによるサルコイドーシスの診断と有意に関係していた（5年を1単位とする、オッズ比0.79、95%信頼区間0.64-0.97、 $P=0.03$ ）。

EBUS-TBNAによるサルコイドーシスの診断率は若いほど高かった。よって、EBUS-TBNAによるサルコイドーシスの診断において、年齢は独立した予測因子かもしれない。